

浜松市スポーツ推進ビジョン

(第3期浜松市スポーツ推進計画)

概要版

【資料2-1】

目指す将来像

スポーツ文化都市 浜松

年齢、性別、国籍、障がいの有無などを問わず、誰もが身近にスポーツを楽しめるインクルーシブスポーツ環境が市民の間で文化として定着しており、スポーツを「する」「みる」「ささえる」が相互に機能することにより、市民の活力が生まれ、にぎわいが創出されているまち

＜必要な視点＞

みんなで
(Everybody)

様々な場で
(Everywhere)

持続可能なかたちで
(Sustainable Ecosystem)

楽しむ
(Enjoy!)

＜策定趣旨＞ スポーツが持つ「まちを元気にする力」を最大限に引き出し地方創生の実現につなげることを目指し、スポーツに係るソフト事業とハード事業の方針を一体的に示す新たなビジョンを策定するものです。

＜計画期間＞ 2025年度～2029年度（令和7年度～令和11年度）

将来像に向けた政策の方針

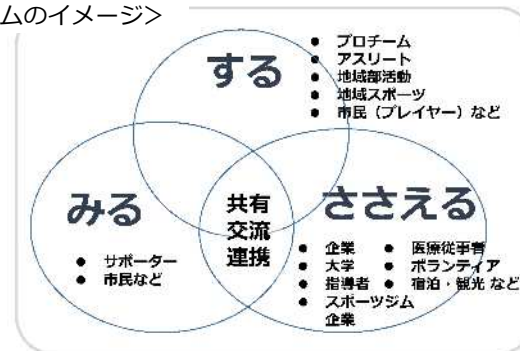
(1) 「する」「みる」「ささえる」の連鎖を生む政策

分野	
分野1 「する」 スポーツ	年齢、性別、国籍、障がいの有無などを問わず、市民が多様なスポーツに気軽に参加できる機会を創出します。次代を担う子ども達のスポーツ機会の充実、身近な地域、日常の暮らしの中でスポーツをする環境づくりを進めます。
分野2 「みる」 スポーツ	スポーツ文化の定着を目指し、地域で活動するスポーツチームを応援する機運を醸成します。アスリートの競技を間近で観戦できる機会を創出し、市民のスポーツへの関心を高めます。
分野3 「ささえる」 スポーツ	地域で持続的にスポーツを行っていくために不可欠な「ささえる」人材づくりに取り組みます。人材の資質向上、養成のほか、活動のきっかけ作りや情報提供などの環境づくりを進めます。
「する」「みる」「ささえる」に横串を刺す政策	スポーツの「する」「みる」「ささえる」の振興を通じた相乗効果を生み出すため、地域における連携、協働を促進する基盤（プラットフォーム）を整えるとともに、情報の効果的な集約と発信を図ります。
「スポーツの力」を生かす政策	スポーツを通じた健康増進や精神的充足に加え、社会的つながりの確保、地域経済の活性化、スポーツを媒介とした社会課題解決など、スポーツが持つ様々な価値や効果を生かし、市民が幸福を実感できるまちづくりを推進します。

推進体制

- 行政だけでなく、地域、学校、民間事業者、プロスポーツチーム、競技団体、NPO等との連携、協働により将来像の実現を目指します。
- 2025年（令和7年）1月には、「はままつインクルーシブスポーツ連携プラットフォーム」を設立しました。
- プラットフォームを活用し、異分野融合によるイノベーション創出と時代に即した新たなスポーツ施策への展開につなげます。

＜プラットフォームのイメージ＞



(2) スポーツの基盤を支える施設

基本的な方針		利用圏域に応じた整備運営
効果効率	- 施設規模や機能の見直しを進めるとともに、複合化や集約化、管理主体の変更など継続的に取組めます。 - 公共空間などの積極的な活用や、民間スポーツ施設などの活用の検討や実証など、身近な環境づくりを進めます。	広域施設 (市内だけでなく国内・外の利用を基本) 「する」「みる」「ささえる」スポーツの力を生かした地域活性化の拠点
安全快適	- 日常点検の確実な実施と危険箇所への対応、また、大規模施設等においては、中長期の視点から計画的に改修を進めます。 - 施設のユニバーサルデザイン化と誰もが使いやすい利用環境の構築を推進します。	市域施設 (市域全体での利用を基本) 市域でスポーツを「する」「みる」「ささえる」の好循環を生み出す拠点施設
民間ノウハウの活用	大規模施設の改修や新設においては、PFIなどの民間活力の積極的な活用や、指定管理者制度の導入を継続するとともに、プロスポーツチーム等の連携による事業の充実など、民間事業者の知見を積極的に取り入れた施設の整備・運営を進めます。	地域施設 (行政区内程度での利用を基本) 地域における「する」「ささえる」を重点とした拠点 生活圏域施設 (中学校区程度での単位) コミュニティ圏域施設 (主に自治会単位) 身近なスポーツを「する」「ささえる」拠点